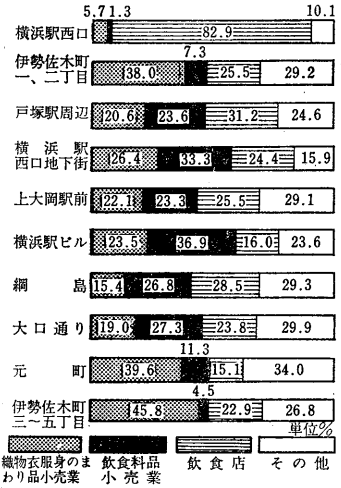
19 再開発

いそがれる再開発

市街化の進行にともなって各駅周辺の発展はめざましく、主要駅の乗客数も昭和三十七年度と四十七年度の比較では二～三倍に増加し（図―107）、各地区の商業活動の活発化もいちじるしい（図―108）。駅周辺は交通の流れの結節点として、また日常的な消費の中心として地域の生活に大きな役割をもっているが、自然発生的な発達にまかせられたため、バスの発着にも不自由な所が少くない。横浜市は鶴見駅前、新横浜駅前などで、市街地改造あるいは先行的整備を行なってきているが、まだ問題は今後にもちこされている所が多い。

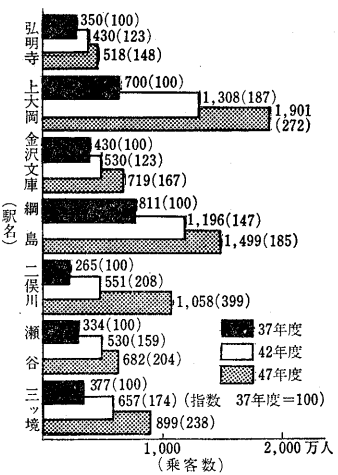
一方、横浜駅周辺、伊勢佐木町、関内周辺、本牧接収解除地区等を中心とする都心部の再開発は、六大事業のひとつとして、地下鉄・高速道路などと関連させながら推進されている（図―109）。これらは各地区の特性を生かし、魅力ある都心を形成することを目標とするものである。

図-108 主な繁華街地域の業種別割合（昭和47年度）



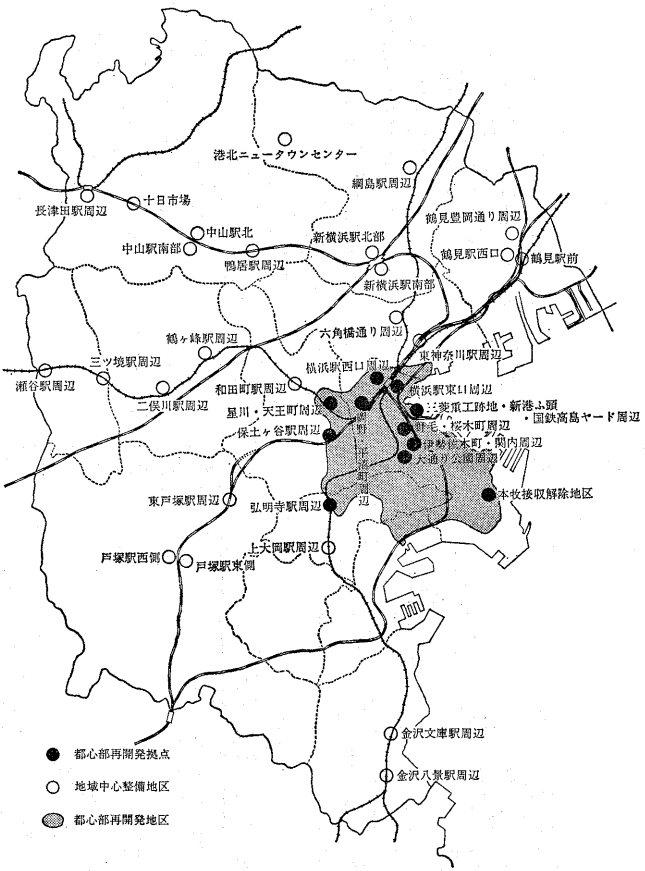
〔注〕繁華街地域とは既存の商店街を中心にして小売業・飲食店が一つの通りを中心に，おおむね100店以上存在する地域をいう 〔資料〕「昭和47年商業統計調査」

図-107 主要私鉄駅乗客数推移



〔資料〕「横浜市統計書」

図-109　再開発計画図



〔資料〕「横浜市総合計画・1985」